

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

| | |
|------------|---|
| Title | 観楓會席上連歌：文苑 |
| Author(s) | |
| Citation | 龍南會雜誌， 6 2： 5 5 - 5 5 |
| Issue date | 1897-12-27 |
| Type | Departmental Bulletin Paper |
| URL | http://hdl.handle.net/2298/5005 |
| Right | |

水鳥の羽音もさえてみなと江のあしの枯葉に夕風そふく 蘆 月

評曰、聲調通古

霜かれの蘆の古葉に風さえて見るめ淋まき灘波江の浦
折ふしてれしの伏戸となりにけり霜にかれ行く瀬々のむら蘆

評曰、至妙

觀楓會席上連歌

(雜報欄參照)

千早振あまの岩戸を押し分けて見れば神代の紅葉てりけり
さえ渡る月もいつしかかたふきて面影のこす峯のもみち葉
見る人もなき山里にもみち葉のにしきをさつゝ住む人もあり
紅葉散る峰にも尾にも音たてゝなくや小鳥の聲もはえあり
荒れ果てし賤か菴に立よれば人もあらしの紅葉散りしく
うるはしき峯の紅葉散りぬども形身は残る木枯の聲
鳥の音も煙の底にうつもれて夕日さひしき山の下庵
くみかはす紅葉の酒のなりひさこ枝にかけれくいとまあらめや
夕まくれ鐘の音遠く音つれて歸りをいそぐ山れるまの風

同席上郎題

讀む文のしほりにせはや紅葉の一葉はかりはゆるせ山姫 溪 川